

**10月20日はリサイクルの日**

**不要なプラスチックの廃止完了、麻布台ヒルズから始まる新たな施策  
「森ビル ワンウェイプラスチック削減プラン 2030」の推進**

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 辻慎吾)は、資源循環型都市の実現に向け、2020年にプラスチックの削減計画「森ビル ワンウェイプラスチック削減プラン 2030」を策定し、当社グループ丸となってプラスチック削減活動を推進しています。この度、2023年末を期限とする「不要なプラスチックの廃止」について各種施策を完了しました。今後は、11月に開業を控える麻布台ヒルズなどを舞台に、入居企業や店舗、また来街者とも協働した新たな取り組みについて、街(ヒルズ)を挙げて着手していくことで、本施策をより進化・深化させてまいります。

**森ビルグループにおける不要なプラスチックの廃止完了**

2023年末を期限とする当社グループの「不要なプラスチックの廃止」に対し、主に以下取り組みを完了しました。また2022年4月のプラスチック新法施行を受け、レジデンスにおけるアメニティの脱プラ対応も加速させています。

- ① 当社直営のカフェおよびグループ会社が運営するホテル、会員制レストランでのカトラリー仕様変更などサービス形態の変更
- ② ビニール製の包装材を廃止
- ③ 当グループ各施設における飲料提供形態の変更(アルミ缶や紙パックでの提供、給水スポット新設)
- ④ 当社名入れ手提げ袋の素材変更(持ち手部分を含め、全てを紙素材とし、リサイクルを推奨)
- ⑤ プラスチック新法の施行を踏まえ、レジデンスのアメニティ素材を変更

上記に加え、各施設に設置している傘ぶくろ(ビニール製)を順次「傘のしずく取り器」に変更、紙製クリアファイルの導入検討など、更に脱プラに向けた対応を進めてまいります。

**麻布台ヒルズで取り組む廃棄物の削減と資源循環に向けた新たな取り組み**

麻布台ヒルズでは、街のコンセプト「Modern Urban Village」を支える2つの柱として「Green & Wellness」を掲げています。この具現化に向け、当社がかねてより取り組んできた資源循環などに関連する各種実証実験結果をもとに、麻布台ヒルズで以下の新たな施策をスタートします。

- ① ペットボトルの水平リサイクル「ボトル to ボトル」の実装
- ② マイボトル利用促進に向けた給水スポットの設置
- ③ 入居企業・店舗と協働で削減に取り組む「廃棄物の見える化と従量課金」システムの導入
- ④ ヒルズのイベントガイドライン作成 ～廃棄物削減・適正処理等～

このほか、フードロスの削減を目指し、麻布台ヒルズ マーケットの一部店舗では、注文を受けてから調理するバイオーダーの惣菜などにも取り組む予定です。



当社では、当社およびグループ企業内でのプラスチック削減に向けた取り組みはもちろんのこと、入居企業や店舗、街の利用者とも協働して、街(ヒルズ)を挙げて脱プラや廃棄物削減などを通じたサーキュラーエコノミーの実現を目指します。そして、“都市と自然の共生”“都市の脱炭素化”“資源循環型の都市”など、未来へとつながる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 島田、田澤

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

## 森ビルグループにおけるワンウェイプラスチックの廃止および代替品移行の具体策

2023 年末を期限とする当社グループの「不要なプラスチックの廃止」に対し、主に以下取り組みを完了しました。また 2022 年 4 月のプラスチック新法施行を受け、レジデンスにおけるアメニティの脱プラ対応も加速させています。

### ① 当社直営のカフェおよびグループ会社が運営するホテル、会員制レストランでのサービス形態の変更

- ・ プラスチック製ストローの提供を廃止。お客様の希望に応じて紙製(一部バイオ製品)を提供。
- ・ テイクアウト用カトラリーをプラスチック製から紙製・木製(一部バイオ製品)・再生プラスチック製に変更。

### ② ビニール製の包装材を廃止

- ・ 「HILLS LIFE」など、当社刊行物のデジタル化による配送時の包装材廃止
- ・ 当社名入れカレンダーの包装材を紙製に変更
- ・ 年賀贈答用タオル(ビニール包装)の配布を廃止

### ③ 当グループ各施設における飲料提供形態の変更

- ・ 当社応接室、ホテル客室、レジデンスでの提供飲料をプラカップやペットボトルからアルミ缶・紙パックに変更
- ・ 六本木ヒルズの教育施設「アカデミーヒルズ」に給水スポット新設

### ④ 当社名入れ手提げ袋の素材変更

- ・ プラスチック製の持ち手や、袋部分のポリプロピレンフィルム加工を廃止し、全ての素材を紙製に変更。また、製作段階でもグリーン電力を使用するなど環境に配慮し、各環境認証マークおよび利用者使用后のリサイクルをお願いするメッセージを表記

### ⑤ プラスチック新法の施行を踏まえ、レジデンスのアメニティ素材を変更

- ・ 歯ブラシはバイオマスプラスチックを原料に含むものとし、包装材も紙製に変更
- ・ ボディタオル本体を綿 100%とし、包装材も紙製に変更
- ・ 綿棒コットンセットの包装材を紙製に変更
- ・ 室内スリッパの包装材をシーチング製(綿 100%)に変更

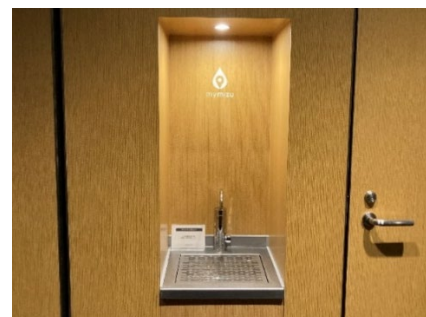
上記に加え、各施設に設置している傘ぶくろ(ビニール製)を順次「傘のしずく取り器」に変更、紙製クリアファイルの導入検討など、更に脱プラに向けた対応を進めてまいります。



テイクアウト用紙製包装材の木製カトラリーとおしぼり



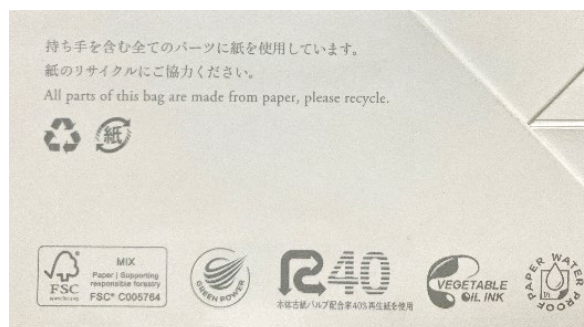
素材を変更したレジデンスの各種アメニティ



アカデミーヒルズに新設した給水スポット



持ち手部分を含め全てを紙素材とし、リサイクルの推奨を記載(底面)した当社名入れ手提



## 麻布台ヒルズで取り組む廃棄物の削減と資源循環に向けた新たな取り組み

本年11月24日に開業する麻布台ヒルズでは、街のコンセプト「Modern Urban Village ～緑に包まれ、人と人をつなぐ『広場』のような街～」を支える2つの柱として「Green & Wellness」を掲げています。この具現化に向け、当社ではかねてより各種実証実験を行い、街全体で廃棄物削減や資源循環など環境負荷低減を目指すための新たなシステム構築や運用の検討を進めてきました。これらの結果を踏まえ、麻布台ヒルズではプラスチックの水平リサイクルのモデルとなる「ボトル to ボトル」を実装するほか、屋外の給水スポットを設置。また、フードロスの削減を目指し、麻布台ヒルズ マーケットの一部店舗では、注文を受けてから調理するバイオーダーの惣菜などにも取り組む予定です。

さらに、入居企業や店舗ごとに、分別した廃棄物量を可視化するWEBシステムを当社が独自に開発。順次、導入を開始し、入居企業などと協働で廃棄物の総量削減に努めます。

### ①ペットボトルの水平リサイクル「ボトル to ボトル」の実装

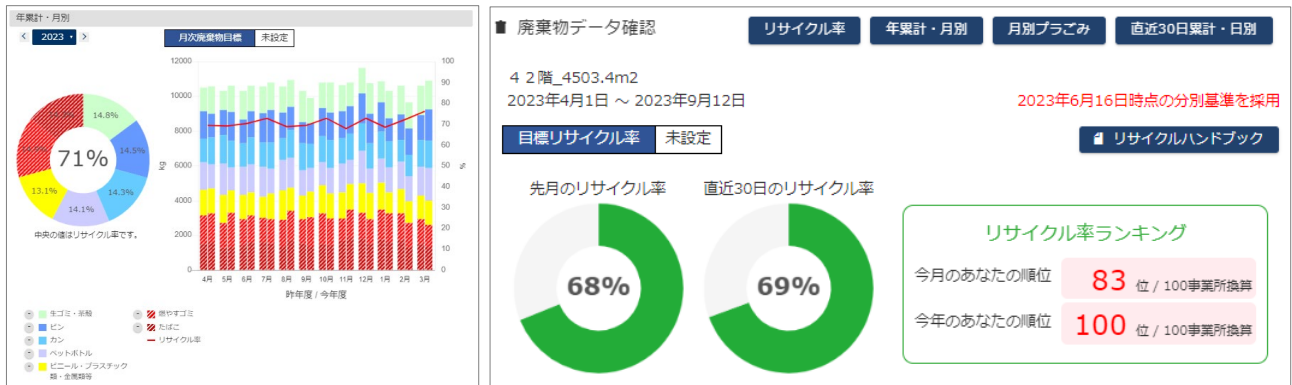
使用済みペットボトルを新たなペットボトルにリサイクルをする「ボトル to ボトル」水平リサイクルのルートを構築。このリサイクルにより、新たなペットボトルを作る化石由来資源の削減とCO2の削減に寄与します。

### ②マイボトル利用促進に向けた給水スポットの設置

麻布台ヒルズの中央広場に給水スポットを設置。散策やランニングの際に誰でもご自由に利用いただけます。

### ③入居企業・店舗と協働で削減に取り組む「廃棄物の見える化と従量課金」システムの導入

従来はビル管理の一環として廃棄物を処理していましたが、ビル全体の廃棄物量削減を図るため、麻布台ヒルズでは、入居企業や店舗ごとの廃棄物量を可視化するWEBシステムを初めて導入します。これにより、各社が自社の廃棄物削減・リサイクル率向上を目指し、より具体的な戦略を立てることが可能となります。また廃棄物量に応じた従量課金制を導入することにより、廃棄物削減の努力がコストメリットとして反映されるようにしています。本システムは、虎ノ門ヒルズ ステーションタワーなどにも順次導入予定です。



「廃棄物の見える化システム」画面イメージ

### ④ヒルズのイベントガイドライン作成 ～廃棄物削減・適正処理等～

ヒルズで行われるイベントのサステナビリティや廃棄物に着目し、「サステナブルイベントガイドライン」を独自に作成。イベントを通じて発生する廃棄物をはじめ、エネルギーや資源の有効利用等に向けた様々なガイドラインです。麻布台ヒルズの屋外イベントで運用を開始し、随時アップデートを行いながら他ヒルズのイベント運営にも展開していきます。

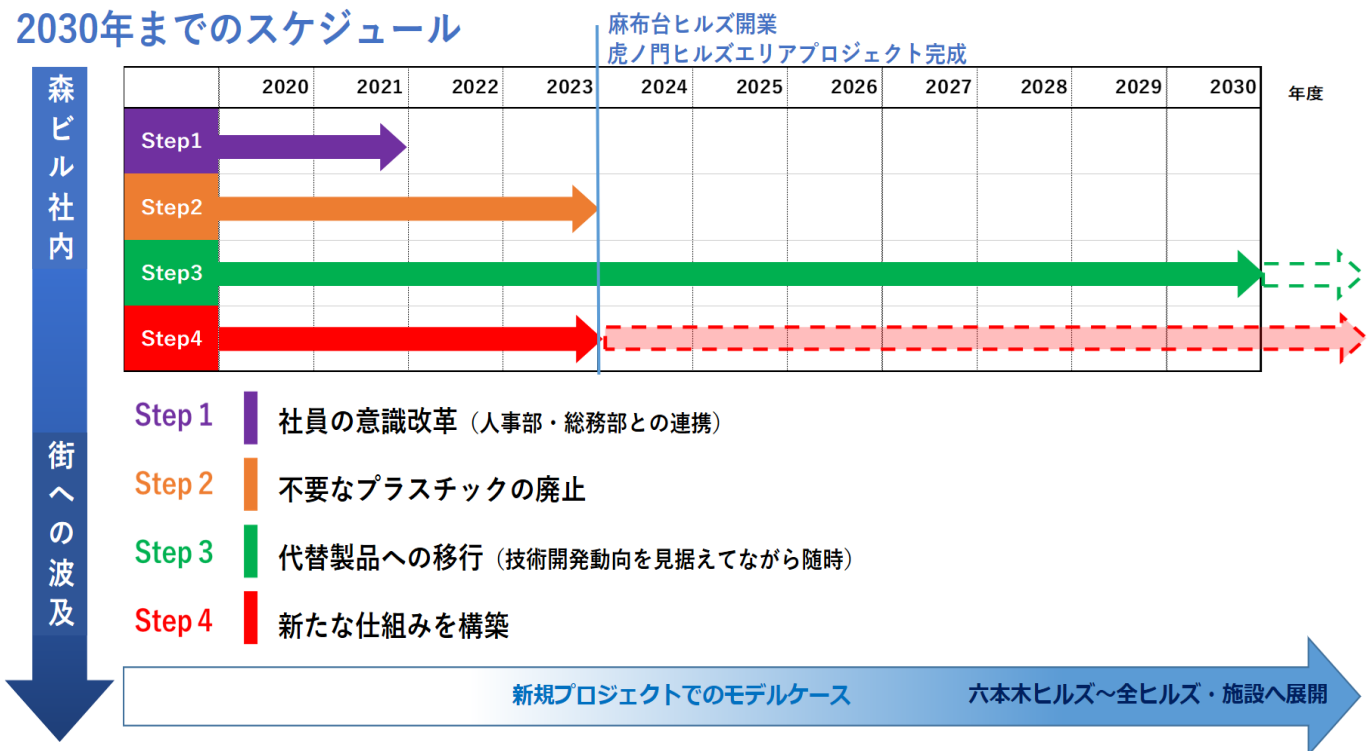
<参考①>

「森ビル ワンウェイプラスチック削減プラン 2030」の概要

産業革命以降、地球上での資源利用が増え続けており、中でもプラスチックの使用に伴うCO2排出による地球温暖化への影響や、海洋流出に伴う問題への対応は、世界レベルで大きな課題となっています。2018年に欧州委員会が発表した「循環型社会における欧州プラスチック戦略」に続き、日本国内でも2019年に環境省が「プラスチック資源循環戦略」においてプラスチック削減の数値目標を策定し、東京都は「ゼロエミッション東京戦略」を発表しました。特に都市部では多くの人々の営みがあることから、効率的な資源利用に向けた対応を速やかに推進する必要があります。

こうした中、当社では2020年にプラスチックの削減計画「森ビル ワンウェイプラスチック削減プラン 2030」を策定、以降、全社横断で取り組みを推進しています。

2030年までのスケジュール



- 2020年2～3月 主要部門にて担当者を選任。削減方針策定に向け、社内のプラスチック利用状況を把握
- 11月 削減に向けて具体的に取り組む23の項目（現在24項目）を決定
- 2021年1月～ ワンウェイプラスチック廃止9項目※への対応を開始  
 ※プラスチックストロー、プラスチック製ショッパー、傘ぶくろ、DM包装材、贈答用カレンダー包装材、年賀タオル包装材、自社名入れ紙袋の持ち手、応接室用プラカップ、自社手帳
- 2022年4月～ 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック新法）」の施行を受け、特定プラスチック使用製品（12品目）使用の廃止および代替品への移行
- 2023年秋～ 実証実験などで取り組んできた資源循環に向けた各種施策を、麻布台ヒルズなどの各ヒルズや施設にて順次展開予定

<参考②>

プラスチック削減に向け、これまでに実施した実証実験(例)

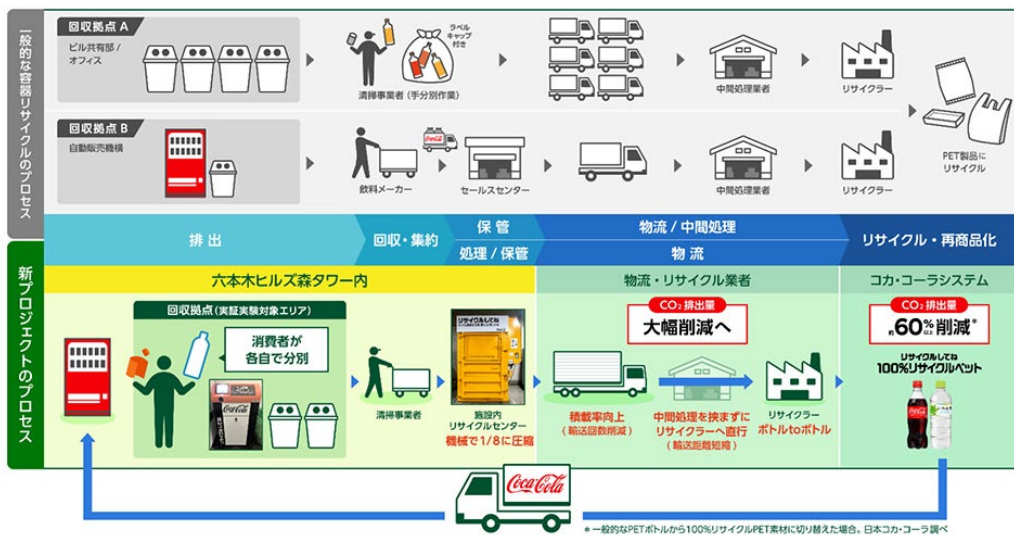
「ボトル to ボトル」水平リサイクル実証実験：2021年11月～2022年2月

六本木ヒルズにおいて、事業系 PET ボトルの新たな資源循環モデルの確立を目指す日本初の取り組みとして、環境省「令和3年度バイオプラスチック及び再生材利用の促進に向けた調査・検討委託業務」の一環である「環境省プラスチックの資源循環に関する先進的モデル事業」として実施。六本木ヒルズ森タワー内の実証実験対象エリアで発生した使用済みペットボトルを、専用の自動回収機(RVM)と既設の分別回収BOXで回収。飲料用ペットボトル容器として再生させる「ボトル to ボトル」リサイクルの具現化を目指し、排出事業者と飲料メーカー、リサイクラーの協働による新たなシステムの構築および運用に挑戦しました。

参考)2022年1月24日プレスリリース:六本木ヒルズで「ボトル to ボトル」リサイクル実証実験開始

<https://www.mori.co.jp/company/press/release/2022/01/20220124110000004269.html>

一般的な容器リサイクルのプロセスと新プロジェクトのプロセス



弁当容器リユース LOOP 実証実験「Loop Takeout Bento」：2020年12月～2021年2月

耐久性の高いリユース容器を使用した弁当を販売し、容器の回収・洗浄および再利用を推進することで、プラスチックを削減するためのプラットフォーム実現に向けた取り組みで、実験の主体である Loop Japan 合同会社と連携し、当社社員を対象に、六本木ヒルズ内のカフェ「PRAK6」で実施。当社社員が、専用のリユース容器を使用した弁当を購入、使用後はオフィス給湯室内に設置された回収ボックスに容器を返却。それを管理業者が回収し、佐川急便のトラックの余剰を使って洗浄センターまで輸送。洗浄・消毒を行った後、再び店舗で再利用しました。

